

国
(問題)
語
2009年度

〈H21031121〉

注 意 事 項

- 1 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
- 2 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべてマーク解答用紙の記入欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
- 4 氏名をマーク解答用紙の所定欄（一ヶ所）に記入すること。
- 5 マーク欄ははつきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでいいねいに、消し残しがないように消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 6 試験終了の指示がでたら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わず解答を続けた場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

早稲田大学 国際教養学部 一般入学試験問題の訂正内容

【国語】

問題用紙5ページ (二) 第1行目

(誤)

と人間は視覚刺激と受け取ってしまうのか。なぜ、一応は分かる「絵」になるのか。

(正)

と人間の脳は視覚刺激と受け取ってしまうのか。なぜ、一応は分かる「絵」になるのか。

以上

(一) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

細君の父は事務家であった。a 仕事本位の立場からばかり人を評価したがつた。乃木將軍が一時台湾総督になつて間もなくそれを已めた時、彼は健三に向つてこんな事を云つた。――

「個人としての乃木さんは義に堅く情に篤く実に立派なものです。然し総督としての乃木さんが果して適任であるかどうかという問題になると、議論の余地がまだ大分あるように思います。個人の徳は自分に親しく接触する左右のものには能く及ぶかも知れませんが、遠く離れた被治者に利益を与えようとするには不充分です。b 矢つ張手腕ですね。手腕がなくつちや、どんな善人でもただ坐っているより外に仕方がありませんからね」

彼は在職中の関係から或会の事務一切を管理していた。侯爵を会頭に頂くその会は、彼の力で設立の主意を綺麗に事業の上で完成した後、彼の手元に二万円程の剰余金をゆだねた。官途に縁がなくなつてから、不如意に不如意の続いた彼は、ついそのイタク金に手を付けた。そうしていつの間にか全部を消費してしまつた。然し彼は自家の信用を維持するために誰にもそれを打ち明けなかつた。c 彼はこの預金から当然生まれて来る百円近くの利子を毎月チヨウタツして、体面を繕わなければならなかつた。自家の経済よりも却つてこの方を苦に病んでいた彼が、公生涯の持続に絶對に必要なその百円を、月々保険会社から貰うようになったのは、当時の彼の心中に立入つて考えて見ると、全く嬉しに違なかつた。

余程後になつて始めてこの話を細君から聴いた健三は、彼女の父に対して新たな同情を感じただけで、Iと
して彼を悪む気は更に起らなかつた。そういう男の娘と夫婦になつてゐるのが恥ずかしいなどは更に思わなかつた。然し細君に対しての健三は、この点に関して殆ど無言であつた。細君は時々彼に向つて云つた。――

「妾、どんな夫でも構いませんわ、ただ自分に好くしてくれさえすれば」

「泥棒でも構わないのかい」

「え、え、泥棒だろうが、詐欺師だろうが何でも好いわ。ただ女房を大事にしてくれば、それで沢山なのよ。いくら偉い男だつて、立派な人間だつて、宅で不親切じゃ妾にや何にもならないんですもの」

實際細君はこの言葉通りの女であつた。健三もその意見には賛成であつた。d 彼の推察は月の暈の様に細君の

言外まで滲み出した。学問ばかりに屈託している自分を、彼女がこういう言葉で余所ながら非難するのだと云う臭が何処やらでした。然しそれよりも遥かに強く、夫の心を知らない彼女がこんな態度で暗に自分の父を弁護するのではな

いかという感じが健三の胸を打つた。

「己はそんな事で人と離れる人間じゃない」

自分を細君に説明しようと力めなかつた彼も、独りで弁解の言葉を繰り返す事は忘れなかつた。

然し細君の父と彼との交情に、自然の溝渠が出来たのは、やはり父の重きを置き過ぎてゐる手腕の結果としか彼には思えなかつた。

健三は正月に父の所へ礼に行かなかつた。5 キヨウガ新年という端書だけを出した。父はそれを寛飯さなかつた。表面きそれを咎める事もしなかつた。彼は十二三になる末の子に、同じくキヨウガ新年という曲りくねつた字を書かして、その子の名前で健三に賀状の返しをした。こういう手腕で彼に返報する事を巨細に心得ていた彼は、何故健三が細君の父たる彼に、賀正を口ずから述べなかつたか6 の原因に就いては全く無反省であつた。

II。利が利を生み、子に子が出来た。二人は次第に遠ざかつた。已を得ないで犯す罪と、遣らんでも済むのにわざと遂行する過失との間に、大変な区別を立ててゐる健三は、性質の宜しくないこの余裕を非常に惡み出した。

「与し易い男だ」

實際に於て与し易い或物を多量に有つてゐると自覺しながらも、健三は他からこう思われるのが癪に障つた。

彼の神経はこの肝癪を乗り越えた人に向つて鋭い懐しみを感じた。彼は群衆のうちにあつて直ぐそういう人を物色する事の出来る眼を有つていた。けれども彼自身はどうしてもその域に達せられなかつた。だから猶そういう人が眼に着いた。又そういう人を余計尊敬したくなつた。

同時に彼は自分を罵つた。然し自分を罵らせるようにする相手をば更に烈しく罵つた。

斯くして細君の父と彼との間には自然の造つた溝渠が次第に出来上つた。彼に対する細君の態度も暗にそれを手伝つたには相違なかつた。

問一 傍線部1、2、5（二ヶ所同じ）にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語を、それぞれ次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | ア | イ約 | イ | 辞イ | ウ | イ曲 | エ | 周イ |
| 2 | ア | 出チヨウ | イ | チヨウ意 | ウ | 色チヨウ | エ | チヨウ過 |
| 5 | ア | キヨウ順 | イ | 最キヨウ | ウ | キヨウ縮 | エ | 説キヨウ |

問二 空欄

a

d

 にはそれぞれどのような言葉が入るか。その組み合わせとしてもつとも適当なものを次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|--------|---|-------|---|--------|
| ア | a | 従って | b | 其所へ行くと | c | けれども | d | 動もすると |
| イ | a | 従って | b | けれども | c | 動もすると | d | 其所へ行くと |
| ウ | a | 動もすると | b | 其所へ行くと | c | 従って | d | けれども |
| エ | a | 動もすると | b | 従って | c | けれども | d | 其所へ行くと |
| オ | a | けれども | b | 其所へ行くと | c | 従って | d | 動もすると |

問三 傍線部3「却ってこの方を苦に病んでいた」のはなぜか。その理由としてもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|---------------------|---|--------------------|
| ア | 自分の道徳観から外れていると感じたから | イ | 自分に対する世間の評価を重んじたから |
| ウ | 家族に心配をかけたくなかったから | エ | いずれ失地挽回できると考えていたから |

問四 空欄

I

 に入るもつとも適当な語を次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|---|-----|---|------|
| ア | 犯罪者 | イ | 不徳義漢 | ウ | 偽善者 | エ | 破廉恥漢 |
|---|-----|---|------|---|-----|---|------|

問五 傍線部4「この言葉通りの女」とあるが、その内容としてもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|
| ア | 世間体よりもまず経済的安定を考えている女 | イ | 自分の得が何よりもまず大事だと考える女 |
| ウ | 男はまず妻を大事にするものと考えている女 | エ | いざとなれば、思い切ったことをしでかす女 |

問六 傍線部6「原因」とあるがそれは何か、その内容としてもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|--------------|---|--------------|
| ア | 父の零落に対する同情 | イ | 夫婦の不仲からくる疎外感 |
| ウ | 父の巨細な世間知への嫌悪 | エ | 父の人間評価への違和感 |

問七 空欄

II

 に入るもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|---------------|---|-----------|
| ア | 火のないところに煙は立たぬ | イ | 一事は万事に通じた |
| ウ | 雨降って地も固まった | エ | 愚問は愚答を生んだ |

問八 傍線部7「遣らんでも済むものにわざと遂行する過失」とあるが、具体的には何を指しているか。もつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ア | 返報 | イ | 弁解 | ウ | 非難 | エ | 屈託 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

問九 この場面全体に底流する主人公の中心的な思いは何か。もつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | |
|---|------------------------------------|
| ア | 自らの失策については反省せず、自分を与しやすい人間とみる父への不満 |
| イ | 学問に没頭したくてもさまざまな心配事を押しつけてくる世間への嫌悪 |
| ウ | 自分と父との溝の理由について、妻と理解しあえないことへのいらだち |
| エ | 自分の価値を明確に持ち他人の評価に一喜一憂しない人間に対する尊敬の念 |

(二) 次の文は長年、精神分裂病^註の治療に携わってきた精神科医の文章である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

精神分裂病では、おかしい現象がいろいろ起きる。そういう変な出来事を、精神科医は病的体験と呼んでいる。

これは、脳の働きに異常が生じてその結果起きてきたことだと考えるからである。

b 「かく働くべきであるのに、そう働かない」ということであらう。

ところでここに、「魔法使いの弟子」というおとぎばなしがある。

師匠の留守中に、楽をしようとした弟子が覚え立ての呪文を唱えてホウキを召し使いに变身させて、水汲みの仕事をさせているうちに、ホウキが水運びをやめなくなってしまう、元のホウキに戻す呪文は知らないものだから、家中水浸しになって、おぼれそうになる。

フランスの作曲家ポール・デュカに交響詩「魔法使いの弟子」があり、かなり有名な^{はなし}断片だが、どこから出てきたものは、つまびらかでない。ノバート・ウィーナー『サイバネティクス』にもこの断片が引かれていて、そこではゲーテの作品だと書いてある。

c ホウキは水汲みをやれと命じられているのだから、「かく働くべく働いて」困った事態を招いたことになる。脳を「水汲み人代行を命じられたホウキ」と見立ててみる。

脳がオカシクなるのには、水汲みをやらなくなるといふサボタージュと、水汲みをいつまでたっても止めてくれないというのと二通りある。

後のほうは、脳が脳であるが故にそうしてしまう、「なんでそんなことをするんだ」「脳とはそういうものだ」という事態である。

² 精神分裂病の症状と脳の機能不全との照合に、今までのところ、精神科医は失敗している。

脳のノーマルな状態をささえるべく働いている機能が、止まるか弱まるかして、アブノーマルな状態になった。

あるべき機能がなくなったのだから、脳にとっては何かネガティブな事態である。ネガティブな事態の結果、アブノーマルな状態になった。

この因果関係が証明されればいい。

だけど、こういう順序の思考でいいんだろうか？

人間がくたびれた時や、くたびれを通り越してあと一歩でというところに差しかかると、脳のほうも相当おかしいことを始めることがある。

ある人が、ヨットで時化^{しけ}にあった。

午前二時にウォッチ交代のため眠気と疲労、船酔いと吐き気をこらえながら、コックピットに這^はい出そうとして、ふと下を見ると真新しい日記帳がある。見たこともない奇麗なノートブックにたしかに自分の字で、書いた覚えのない記載がある。眼をこらしてよく見ようとすると、風が吹いてきてページをパラパラとめくり、そこにまた書いた覚えのない文章が現れる。

精神科医はこういうのを入眠時幻覚という幻視の一種だと言ったり、この幻の中身に「解釈」を加えて、真新しいノートブックは女の下着であるだの、「書いた覚えのない」というところには実は「覚え」が隠されていて、それは意識^{いし}下の罪意識だ、などと言う。

脳は、なんと言うか？

「ここを出しているのは、間に合わせだ」と言いそうである。

ようするに、何か絵を出さなければいけないことになったので出した。映画のフィルムがひとコマふたコマ飛んでしまった、急いで何かの映像で穴を塞いでおかないと、映写機が火事になる。あるいは、高速回転機を回している時に、用紙が数枚抜けていて、そのままでは壊れてしまうから、手近の紙をはさみこんだ。そこに何が印刷されているかは、

I。

ピンチになった時、脳はなぜ間に合わせのやつつけ仕事をやらかすのか。

警告信号かもしれない。——どういう？

「……大分クレージーになってますよ」、あるいは「限界！ 限界！ 限界！」。

放っておくと、空白状態になって、脳にとってはカタストロフに一步近づくことになるので、とにかく一発信号を発射しておく。

II。

ここで発射されている信号がなぜ映像なのか。同様の場面で出て来るのは、誰でもイメージなのか？「この野郎！」という声を聞く人もいるんじゃないか？

ここで発射された信号は、そもそも視覚刺激信号なのか、それとも単に「！」というような刺激で、これが出てくる

と人間の脳は視覚刺激と受け取ってしまうのか。なぜ、一応は分かる「絵」になるのか。これらの不思議に関しては、脳科学者に頑張ってもらわなければならない。それまでは、精神科医は「Ⅲ」で納得していることにする。

脳の自己保存、働きの連続性の維持が目的だとすれば分らなくもない。現象としてはきわめてオカシイが、脳としては別にオカシクもなんともない。

(計見一雄『脳と人間——大人のための精神病理学』より)

(注) 精神分裂病は現在では統合失調症に呼称が統一されている。この問題文では筆者の表現を尊重し、原文のまま掲載した。

問十 空欄 a c には、それぞれのような語が入るか。その組み合わせとしてもつとも適当なものを次のア～カから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | a | 普通 | b | この場合、 | c | ここで |
| イ | a | 普通 | b | ここで | c | この場合、 |
| ウ | a | この場合、 | b | 普通 | c | ここで |
| エ | a | この場合、 | b | ここで | c | 普通 |
| オ | a | ここで | b | 普通 | c | この場合、 |
| カ | a | ここで | b | この場合、 | c | 普通 |

問十一 傍線部 1 「つまびらかでない」の意味としてもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|---------------|---|-------------|
| ア | 調べてみないとわからない。 | イ | くわしくはわからない。 |
| ウ | 今となってはわからない。 | エ | 誰にもわからない。 |

問十二 傍線部 2 「精神分裂病の症状と脳の機能不全との照合に、今までのところ、精神科医は失敗している」のはなぜか。筆者の考えとしてもつとも適当なものを次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ア | 精神分裂病の症状は脳の機能不全から生じているわけではなさそうだから。 |
| イ | 精神分裂病の症状は脳の機能とはほとんど関係がなさそうだから。 |
| ウ | 精神分裂病の症状と脳の機能不全を対応させる技術が未発達だから。 |
| エ | 精神分裂病の症状と脳の機能不全の間の因果関係はまだ実証されていないから。 |

問十三 空欄 I に入るもつとも適当な文を次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | | | |
|---|-----------|---|--------|---|--------|---|-------|
| ア | 無意識しか知らない | イ | 脳は知らない | ウ | どうでもよい | エ | わからない |
|---|-----------|---|--------|---|--------|---|-------|

問十四 空欄 II に入るもつとも適当な文を次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|--------------|---|-----------|
| ア | 作動を止めないために | イ | 幻覚を止めるために |
| ウ | 警告刺激を止めないために | エ | 仕事を止めるために |

問十五 空欄 III に入るもつとも適当な文を次のア～エから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|------------------|---|---------------|
| ア | 脳のことがわかってもしようがない | イ | 脳はクレージーだ |
| ウ | 脳とはそういうものだ | エ | 脳研究の進展を待つほかない |

問十六 この文章で筆者が主張したいことを次のア～エから一つ選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | |
|---|----------------------------------|
| ア | 精神分裂病は脳にとってネガティブな事態から引き起こされたものだ。 |
| イ | 精神分裂病の原因は意識閾下の罪意識である。 |
| ウ | 精神分裂病は脳の自己保存の働きと関係がある。 |
| エ | 精神分裂病の解明には脳科学者と精神科医の協力が必要である。 |

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

「延喜の御時に、古今抄せられし折、貫之はさらなり、忠岑や躬恒などは、御書所に召されてさぶらひけるほどに、四月二日なりしかば、まだ忍音の頃にて、いみじく興じおはします。貫之召し出でて、歌つかうまつらしめたまへり。

こと夏はいかが鳴きけむほととぎすこの宵ばかりあやしきぞなき

それをだに、³けやけきことに思ひたまへしに、同じ御時、御遊びありし夜、御前の御階のもとに躬恒を召して、『月を弓張といふ心はなにの心ぞ。これがよしつかうまつれ』と仰せ言ありしかば、

(A) 照る月を弓はりとしもいふことは山辺をさしていればなりけり

と申したるを、いみじう感ぜさせたまひて、大桂^{おほうちき}たまひて、肩にうちかくるままに、

(B) 白雲のこのかたにしもありあるは天つ風こそ吹きてきぬらし

いみじかりしものかな。さばかりの者に、近う召しよせて、勅禄^{ちよくろく}たまはすべきことならねど、謗^{そし}りをまうす人のなきも、君の重くおはしまし、また躬恒が和歌の道にゆるされたとこそ、思ひたまへしか。(後略)

と優にこそ、あまりにおよすけたれ^(注2)。

この侍問ふ、

「円融院の紫野の子の日、曾禰好忠いかに侍りけることぞ」

といへば、

「それそれ、いと興に侍りしことなり。さばかりのことに上下をえらばず、和歌を賞せさせたまはむに、げに入らまほしきことに侍れど、⁵隠ろへにて、優なる歌をよみ出さむだに、いと無礼に侍るべき。ことに、座に、ただつきにつきたりし、あさましくはべりしことぞかし。小野宮殿、閑院の大将殿などぞかし、『引き立てよ、引き立てよ』と、おきてさせたまひしは。躬恒が別禄^{べつろく}たまはるに、たとしへなき歌よみなりかし。歌いみじくとも、をりふし、きりめを見て、つかうまつるべきなり。けしうはあらぬ歌よみなれど、⁶辛う劣りにしことぞかし」といふ。(中略)

かやうなる女、翁なんどの古言^{ふること}するは、いとうるさく、聞かまうきやうにこそおはゆるに、これはただ昔にたち返りあひたる心地して、またまたもいへかし、⁷さしいらへごと、問はまほしきこと多く、⁸心もとなきに、「講師おはしにたり」と、立ち騒ぎののしりしほどに、かきさましてしかば、いと口惜しく、こと果てなむに、人つけて、家はいづこぞと、見せむと思ひしも、講のなからばかりがほどに、そのこととなく、とよみとて、かいののしり出で来て、居こめたりつる人も、皆くづれ出づるほどにまぎれて、いづれともなく見まぎらはしてし口惜しさこそ。何事よりも、かの夢の聞かまほしさに、居所も尋ねさせむとしはべりしかども、ひとりびとりをだに、え見つけずなりにしよ。

(注) 1 大桂^{おほうちき}—桂は唐衣や狩衣などの下に着用した衣服。

2 およすけたれ—老巧な様子である。

問十七 傍線部1「さらなり」2「あやしき」7「さしいらへごと」8「心もとなきに」の意味としてもつとも適当なものを、それぞれの選択肢ア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|-----|-------------------|---|---------------------|---|-----------|
| 1 ア | それなりに優れていて | イ | もちろんであり | ウ | それほどではなく |
| エ | 言ってもどうしようもなく | オ | 二度目であり | | |
| 2 ア | みすばらしいこと | イ | 場にふさわしくないこと | ウ | 心ひかれること |
| エ | かすかに聞こえること | オ | 聞き苦しいこと | | |
| 3 ア | 差し出口を言うこと | イ | 応答したいこと | ウ | 差し支えのないこと |
| エ | 納得のいかないこと | オ | 隠されていること | | |
| 4 ア | 不安に思っていたところ | イ | 気にくわないと思っていたところ | | |
| ウ | もつと聞きたいと思っていたところ | エ | はつきりしないことだと思っていたところ | | |
| オ | 心浮き立つことだと思っていたところ | | | | |

問十八 傍線部3「けやけきことに思ひたまへしに」の意味としてもっとも適當なものを次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア 極めて優れていると思っておりましたのに
イ 気の休まることだと思っておりましたのに
ウ 風流な振舞であるとお思ひになられたのに
エ 減多にないことだとお思ひになられたのに
オ 聞き苦しいことだと思ひになられたのに

問十九 (A)の歌には掛詞が一つあるが、それはどの句にあるか。もっとも適當なものを次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア 第一句 イ 第二句 ウ 第三句 エ 第四句 オ 第五句

問二十 (B)の歌の傍線部4「天つ風」とは文中のあるものの喩えであるが、その「天」と近い意味に用いられている文中の語は何か。もっとも適當なものを次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア 和歌 イ 君 ウ 御遊び エ 貫之 オ 都

問二十一 傍線部5「隠ろへにて」とはどのようなことか。その説明としてもっとも適當なものを次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア その場から逃れるようにして
イ 目立たないように控えめな声で
ウ 召されていないのにこつそりと
エ 別の人になりすまして
オ 他人の作品をぬすみ聞きして

問二十二 傍線部6「に」と文法上同じ「に」(選択肢の二重傍線部)を含む和歌を次のア～オから二つを選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア 帰りける人來たれりと言ひしかばほとと死にき君かと思ひて
イ 沖つ風吹きにけらしな住吉の松の下枝を洗ふ白波
ウ 吹く風の涼しくもあるかおのづから山の蟬鳴きて秋は来にけり
エ このよしに楽しくあらば来むよには虫にも鳥にもわれはなりなむ
オ 春霞かすみでいにしかりがねは今ぞ鳴くなる秋ぎりのうへに

問二十三 この文章は平安時代に書かれたある作品の一節だが、その作品の冒頭部を次のア～オから選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア あづまぢの道の果てよりもなほ奥つ方に生ひ出でたる人…
イ 先つ頃、雲林院の菩提講に詣でて侍りしかば…
ウ 世始りて後、この国のみかど六十余代にならせ給ひにけれど…
エ やまとうたは人の心をたねとして万の言の葉とぞ…
オ むかし男うひかうぶりして、奈良の京春日の里にしるよしして…